

## 行政調査報告書「健幸都市研究特別委員会」

平成 27 年 11 月 4 日(水)～6 日(金)

### ■新潟県三条市「SWC総合特区、健幸マイレージ、三条マルシェについて」

三条市は、自然と“歩く”生活を基本に①暮らしの場の維持、②にぎわいの場の再生、③生きがい・就労の場の創出を柱としまちづくりを進めている。健幸マイレージでは、③生きがい・就労の場の創出を目的としたボランティアポイント、スタンプラリーや②のにぎわいの場の再生として、外出機会が少なくなりがちな高齢者が気楽に立ち寄れる交流の場をオープンする。

健康に対する意識の低い層（約7割）を動かすため、日常生活の中で自然に運動してしまう仕組みづくり（ポピュレーションアプローチ）を重視しており、そのための要素として、①歩きたくなる道 ②歩いて行きたくなる場所（食事） ③そこで出会える人 の3つを掲げて施策を展開していたことなど市の施策の参考となった。



### ■新潟県長岡市「多世代健康まちづくり、タニタカフェについて」



高齢者や介護認定者の割合が高い長岡市は、自発的な健康づくりの機運が高まり、大学、地元商店街等も加わり、産学官が連携し「多世代健康まちづくりプラン」を策定している。このプランに基づき、健康な生活習慣を幼少から身につけ、多世代にわたる生活習慣病のリスクを軽減し、介護予防、健康寿命の延伸を図ることをコンセプトに事業を展開している。また、タニタカフェでは、1日の消費カロリーが測定でき、タニタカフェに常駐する管理栄養士から「からだカルテ」のデータに基づいたアドバイスが受けられる。独自の店づくりは参考となったが、採算性については課題が見受けられ、運営管理の大変さを感じた。

独自の店づくりは参考となったが、採算性については課題が見受けられ、運営管理の大変さを感じた。

### ■千葉県浦安市「健幸まちづくり、健幸ポイントについて」

民間と大学チームと浦安市が連携し、健康づくりに無関心層を含めた多数の市民の健康づくりを誘引するインセンティブ制度の確立を目指しプロジェクトを進めている。「自分の健康データを気にするようになった」「よく歩くようになった」との声があり、市民の応募状況は目標数を上回っているようだが、健康に関心が高い人が多くを占めているということから、本市の施策においても、いかに健康無関心層にとって有効な取組みを行うかが重要であると感じた。

